

みずほ、資産運用残高1兆ドルに倍増へ 買収も検討

2024/01/18 00:00 日本経済新聞電子版 924文字

みずほフィナンシャルグループは、資産運用残高を10年以内に1兆ドル（約148兆円）へ増やす計画だ。直近の約67兆円から倍になる計算だ。投資家から集めた資金を企業への融資で運用する「プライベートデット」や不動産などオルタナティブと呼ばれる分野に強い運用会社の買収を検討する。提携している楽天証券の個人投資家向けに低コストの運用商品もつくる。

資産運用ビジネスを統括する佐藤紀行執行役が日本経済新聞のインタビューで明らかにした。

世界で最大の運用会社である米ブラックロックの運用資産は2022年末時点の時価ベースで約8.5兆ドル、続く米バンガード・グループが7.2兆ドル程度。みずほは米ドル建てで0.5兆ドル弱にとどまる。佐藤氏は「規模の利益が働きやすく、新たなビジネスに取り組みやすくなる1兆ドルクラブに30年代半ばには入りたい」と語った。

みずほで運用ビジネスの中心は第一生命ホールディングスと共同出資するアセットマネジメントOneだ。同社はグループに散らばる資産運用の機能を統合し、16年10月に発足した。23年9月末時点の運用残高は約64兆円。

佐藤氏は「運用力は国内でトップだが、（今後は）グローバルで戦っていく必要がある」と強調。オルタナティブの運用力を底上げするために「インオーガニック（出資や買収）で足りない分野を埋めていく」と話した。念頭に置くプライベートデットは「変動金利なのでインフレヘッジになる」と金利上昇の局面でも利回りを確保しやすいと説明した。

みずほは楽天証券に49%を出資しており、両社で具体的な連携策の協議を続けている。投資の経験が十分でない若年層に対し、値動きが日経平均株価などの指数に連動するパッシブ型の投資信託だけでなく、「（運用会社が独自に選んだ銘柄で構成する）低コストのアクティブファンドを含めてフルセットで投入する」という。

佐藤氏は1989年に日本興業銀行（現みずほ銀行）へ入行。アセマネOneの前身のDIAMアセットマネジメントなどでファンドマネジャーや不動産投資信託（REIT）を運用するチームの責任者を歴任し、外資系の運用会社で幹部も務めた。昨年4月にみずほで資産運用を統括する社内カンパニーのトップに就いた。



みずほFGの佐藤紀行氏は「2030年代半ばには運用残高を1兆ドルにしたい」と話した（24年1月）

【関連記事】

- ・ [みずほ木原社長「企業の事業再生が軸」 預金は強みに](#)
- ・ [みずほ、楽天証券に900億円追加出資へ 年内上場困難で](#)

許諾番号30097370 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.